

前回の臓器移植委員会（H22.9.6）における 検証方法の見直しに係る議論の概要

迅速化・効率化に係る主な意見

- 家族のグリーフケアの問題はあると思うが、もう少し迅速に対応して、現実に対応した検証方法をとった方がよい。
- 検証委員会は1つしかないので、そこで全部をやっていくことは、とてもではないけれどもできないのではないかと。もう少し絞ってやるべき。
- 実働部隊を増やさなければいけない。ただし、実働部隊は現場に出ている医者であるから、どのように増やすかというのは大変難しいことになると思う。
- 検証会議の人数を増やすのではなくて、新しい制度を含めて考えるなど、その辺がだいぶ問題になると思う。
- 各地域の3人全部集まって、それが同じ日、同じ時間に行かないと駄目というのは、これは現実的に難しいのではないのでしょうか。

過去の経緯に係る主な意見

- 検証委員会というのは、もともと法律ができるときに患者団体として強く要望してつくっていただいた経緯がある。
- 30例ぐらいを目途にやってはどうかという話があった。この先、いまと同じような形で検証委員会は検証をし続けるのか。

検証結果の分析に係る主な意見

- 全体を合わせていろいろなところに問題点がないか、あるいはこういうところを改善していったらもっとうまくいくのではないかとデータの蓄積が必要ではないか。
- レスポンスビリティのところ非常にメインになっていましたが、今後はアナライシスのほうも非常に大事ではないか。